ふかまちのまど
第三七号
九七（平九）年
五月一日 発行

ご挨拶

三原市立深幼小学校園長
小林龍一郎

このたびの人事移動で文化とスポーツ、芸術と歴史、そして教育の町・自然のあふれる深町の小学校に巡り合わせていただきましたことにまずもってお礼申し上げます。今後、深町の一員としてお世話になりますがよろしくお願いいたします。

四月八日の入学式でのご来賓の皆さまと子どもたち、四月十九日のPTA総会での保護者の皆さまのご様子と建設的なご意見をうかがいながら、地域の皆様の教育に寄せられる大きな期待に責任の重大さをひしひしと感じました。

この二週間に多くの方々が学校へおいでくださり、深町の歴史、また学校のこと、そして将来の深町のことなどを教えていただきました。なかでも町の情報誌であります「ふかまちのまど」は他の町にはないすばらしいものです。その内容と質の高さ、企画の豊富さ、また、毎月発行されるとうかがい、とても感動しました。そして、お世話いただく方々の深町に寄せられる情熱に感服しました。そのような町の学校・園へ来させていただいた幸せに感謝しますとともに、子どもの教育を通じて少しでも恩返しができればと考えています。

朝、太郎谷橋を渡り、左に旧道を取り囲み燃えるような新緑とツツジを眺めながら七百メートル、ここは松尾峠、そこから真正面に大池と中山、S字にのびる県道の両側はこの四月からの三週間で白と桃色から新緑に彩りを変えた眺望、ここが新しい勤務地の深町です。この峠こそ太陽に向かって、今日の子どもとの出会いに挑戦する心の高ぶりをかきたててくれる峠、エンジンの音も一段と快く響きます。峠を越えるとまず大池がせまり、池の上の木々が織りなす新緑の妙なる色彩は子どもたちの心に必ずや毎日大きな影響を及ぼしていることと思います。

大池に憩う水鳥の動きは子どもたちに生き物の不思議さを伝えてくれるでしょう。乗兼広人さんの感性は、このすばらしい深町の四季折々の風土に育まれ得難い感性を培われながら成長されたといえましょう。

人権啓発看板「お互いの人権を守って、住みよい社会」をみながら、右にカーブすると真正面に城山が迎えてくれる。城山は故郷深町の象徴であります。田圃の周囲に積み重ねられた石垣を見ても、県道を挟んで南側には地図上では池が十カ所、北側には十六カ所もあり、地図にはない井戸は数え切れない数ですが、地域に住まわれた先人の汗がその一つ一つに込められていることを思わずにはおれません。

「井戸の水を飲む時には、その井戸を掘った人に思いを馳せる人になりたい」という石碑を母校の校庭の一隅で見た子どもの頃を思い起こします。このことを本校の子どもたちに伝えたいと思っています。

左にカーブすると県道と平行し、大地を削って流れる高平川。川は多様な表情をもち、その流水は時の流れのように川面を変え、町の様子を見ながら悠然と流れています。この自然は次代を担う子どもたちの豊かな感性を創造する場です。この自然こそ深小学校の特色ある学校づくりの大きな柱にしたいものです。

豊かな自然環境の中で感性を磨くことは、必ず未来を築く子どもたちの大きな土台になることと思います。左にハンドルを切って学校橋を入り、右側の石の門柱にかかる昭和四十四年（一九六九）年の書「三原市立深小学校」の校名板を見ながら、今朝も子どもたちとの出会いの喜びに心弾みます。

さわやかな笑顔と挨拶、そして真摯な態度で教育実践に取り組む教職員の皆さんとともに、力を合わせて先輩の築かれた「特色ある学校づくり」に取り組みたいと考えています。学校・園や子どもたちへのお気づきがありましたら、どうぞ暖かいご叱正、ご指導をいただきますようにお願いいたします。

本年度、新しく転入してきた教職員は 掛 志穂教諭（三年生担任）と 新田孝治教諭（五年生担任）です。一時も早く地域にとけ込み、地域の皆さまとともに子どもたちの瞳を輝かせたい、とこの出合いを大切にしていく所存ですので、よろしくお願い申しあげます。▲▲

五月町内行事予定

◆小学校（幼）
▼参観日▼給食試食会▼家庭教育学級（幼）以上三件 一二日
▼修学旅行 一五・一六日 ▼人形劇鑑賞（幼）二三日
◆消防団
▼水防訓練（小坂町）一八日 ▼第六回さつき祭り・綱引き大会（宮浦公園）二五日（綱引き参加希望者は八日までに組分団長まで）▼芦田川水防訓練 二八日 ▼分団長会議
◆女性会
▼親睦会 上二三日 中二日 下一日
◆子ども会
▼子供育成会（中之町コミセン）一七日
◆町内会
▼連合会 総会五月中旬
▼下組 役員会一日

新しいおともだち がきました

♡ 中重 智仁くん（三年生）
♡ 中重 雄太くん（幼年長）

謹んでお悔み申し揚げます

★ 金堀静雄様（七十七歳）四月三日

席望展

先輩がぼやいた。友人が「午前中に行くから」、との連絡で来たのは昼前。午後は家電商来宅予約、三時なっても来ないので電話をしたら「五時頃を予定しています。ハイ。」日常よく使う言葉に「急いで」がある。これも危ない。解釈に幅をもたすのは男と女の関係に留めたい。▼曖昧な表現は責任逃れには好都合だ。中央・地方を問わず、役人の使う言葉にこのテがよく登場する。「慎重に検討し」「善処」「前向き」等々。用語のすり替え使用も目につく。昨年福井県敦賀市で起きた「もんじゅ」のナトリュウム漏れ事故で、動燃は県議会答弁で「今回の事象」と表現し、猛反発をくった。▼ペルー日本大使公邸人質事件で、特殊部隊突入直後、フジモリ大統領は防弾チョッキ姿で現場に現われた日本の首相にこれができるだろうか。外相の二回にわたるペルー行きは一体何だった。▼一国の指導者、職場・地域のリーダーはどうあるべきか。権限と責任の関係も問題点の一つ。曖昧なその場限りの問題解決手法は邪道。基本に忠実でありたい。

深の方言 なまり（六）

石井良雄

（な）
なごう……長く
なにゅう……何してるの
しょるーんなー
なば……きのこ
なまける……やおくなる
なるい……平坦な
なんにゃあー……何なら

（に）
にいな……新しい
にがる……腹が痛む
にぎゃー……苦味
にやー……無い

（ぬ）
ぬきい……暖かい
ぬすと……盗人

（ね）
ねえ……姉さん
ねき……そば
ねずみ木……犬つげ
ねずみの歯と……歯を抜く時の呪い
かえてくれ
ねと……根元
ねばか……寝過ぎ
ねばり……米の粉
ねぶかぶし……調子外れの歌
ねや……やに

（の）
のーたくれ……なまけ者
のーふうどーな……不遜な
のーやー……ねえ（語尾につける）
のじいてみる……覗いてみる
のずける……渡す

中国の旅 こぼれ話（六）

＝辺境の人々のくらし＝

高崎壽郎

敦煌は沙漠の伏流水がわき出たオアシスの街で、人口は約十二万人。

街並は一階か二階建ての家が多く、それ以上の建物はまずない。広い土地だからその必要がないようだ。

郊外は純農村である。主な産物は、小麦、コウリャン、ブドウ、ザクロなどで稲作はできない。

バスの中から田園風景を見る。我が国では想像もつかないくらいの畑の広さである。少なくても畑一枚が二・三反ぐらいか。いや、もっと広いかも知れない。

機械化は殆ど進んでいない。たまにトラックターを見るくらい。馬、牛が活躍しているが大半は人力である。広い畑に二・三人が出て鍬で土を打っている。全く気の遠くなるような光景。

朝もやを衝き野良に出て、星を仰いで家路を急ぐ。昔の我が国と変わらぬ農村風景である。

ガイドの話では、「五十年前の日本の農業と考えてよい」といっていた。その感が深い。

農家は、家も小さくみすぼらしい。都会との経済格差は年々拡がっていくようで、街へ出る若者も多いとのこと。

中国では、久しく社会主義の集団農業の政策をとってきたが近年は 小平の市場経済の改革開放政策の導入により、農業も変わりつつあるようだ。

即ち、政府は土地の再分配（農地の私有化）を進め、農家は一定の農作物を収めると余剰物は自由にできるとのこと。集団農業の頃と比べると、農民の生産意欲は格段に増しているらしい。

収穫の秋。敦煌のバザール（青空市場、自由市場のようなもの）で買い物をしたが、そこで生産物や商品を売る人々の底抜けに明るい表情と対応に、なぜか少し安堵を覚えた。

次号は「買い物について」▲▲

校舎と共に（三）

小運動会と鯉のぼり

石井哲代

ようやく学校生活にも馴れた幼稚園、一年生を歓迎するねがいを込めて五月上旬に小運動会が行なわれました。

運動場の東の端、講堂の脇の校旗を掲揚するポールに鯉のぼりを揚げて大きな声で鯉のぼりの歌を歌って元気に運動会をしたものです。

当初鯉のぼりは借り物でしたが「自分達で作りたい」との声で、児童会で検討し、学年で二匹ずつ作ることにしました。

吹き流しは一年生です。図工の時間や放課後各教室で製作しました。ポールに揚げるまでは秘密です。低学年のを偵察に行く者、戸をしっかり押えている者と賑やかでした。ポールの紐にくくる時になってお互いに「あっ」と驚き歓声が湧き全員胸を踊らす瞬間です。

よいよ揚げます。全校児童、ポールの傍で手を打ちながら大きな声で歌いました。

屋根より高い鯉のぼり
大きい　ま鯉はおとうさん
小さい　ひ鯉は子どもたち
おもしろそうに泳いでる

鯉は揚がっていきます。フキの出荷用のビニール袋に、赤・黒・青・黄色等色とりどりのうろこを描いてもらった鯉は、大きな口いっぱい五月の風を吸い込んで軽々と泳ぎます。柿の渋抜き用のビニール袋の太った鯉のぼり。ちょっと重そうな米袋の緋鯉も揚がります。

手製の鯉のぼりのもと本当に一生懸命運動会を楽しみました。給食には柏餅を一個ずつ頂きました。子どもの日を兼ねてのお祝いです。

さて、或る六年生は思い出として、とてつもない大きな鯉づくりを始めました。米袋を解いて張り合わせて長さ四mの真鯉・緋鯉二匹、しかも、全身にうろこをつけようというものでした。不用の紙を集めてうろこ型に切り、色を塗ったり線を描いたり、色紙の金色と銀色をちりばめ、出来たうろこを一枚一枚張っていきます。

放課後は勿論四月二十九日の天皇誕生日も、憲法記念日も返上しての製作でした。大きな口には随分と手こずっていましたが――――。どこかの桶の輪を頂いてつくりました。何重にも何重にも紙を張り合わせ、張り合わせ相当苦心した筈です。どっしりとした堂々の真鯉・緋鯉の完成です。カメラにも半分ずつでないと納まらない大鯉でした。

いよいよ当日。教室から運び出す時は、一年生も二年生も手助けに来てくれ、東側の非常階段をゆっくりゆっくりと、しかも口々に「キヤーキヤー」言いながら降りたあの風景――――。

ポールの紐に結ぶ時は全校のみんなが「わいわい」「キヤーキヤー」はしやぎながら鯉をもっておりました。

よいよ揚揚。しかし、しかしです。屋根より高い鯉のぼり　痛くなる程手を拍き、喉が裂ける程歌っても鯉はどてんとして揚がりません。全身うろこに覆われた鯉は重量オーバー。残念　無念。鯉の終の住み処は図書室と六年生教室廊下の掲示板でした。

五月の風が吹く頃になると、手作りの鯉のぼりの泳ぐ風景と「キヤーキヤー」走りまわる子どもの声がよみがえるのです。▲▲

お知らせ

深町水利組合　組合長　石井静夫

ダム放水を五月一〇日より行ないます。

◆尚　当日町内有線放送で連絡する予定です。

深郷土誌編集室　活動報告

深郷土誌編集室長　高崎壽郎

この組織は、深町の「郷土誌」編集を目的にし、来る二〇〇一年が三原市合併五〇周年に当るので、その記念として、深郷土誌を発刊しようとするものです。

平成八年度の活動

一、六月二九日
・編集室設置の経過
・編集室の構成・役割分担

二、八月三一日
・学習会（三原市との合併・石原氏のその後）
・情報交換

三、一〇月一二日
・学習会（御調群郡誌・深村年貢考①）
・情報交換

四、一二月一四日
・学習会（深村年貢考②・享保の大飢饉と深）
・深町テクテクについて

五、二月二二日
・学習会（八社参り）
・深町テクテクについて

※平成九年度は、学習と共に編集作業に入る予定です。「ふかまちのまど」へも随時発表していきます。